

**事業所名** グループホーム のどか  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成17年12月 6日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A: 現職 医療施設管理者  
資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上、臨床工学技士  
B: 現職 民間教育機関講師  
資格・経験 介護支援専門員、ホームヘルパー2級

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

**外部評価の結果**

**講評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

平成8年に宅老所として始め、E型デイサービスセンターを経て開設された津山市内にあるグループホームと同系列のホームである。グループホームの管理者や職員は伝統ある理念を継承しており、向上心・課題の認識など豊かな知識と経験を有している。

ホームにはショートステイとデイサービスセンターを併設しており、いわゆる「小規模多機能型施設」としての機能を持ち、その特徴を活かし地域の要求を汲んだグループホームの運営を行っている。

入居者にとっては外部との交流が刺激になり、生活に変化がもたらされ、日々の生活に活気を与える効果もある。

昨年・今年と相次いで開設された2ユニットのグループホームで、建物はバリアフリー設計の建物である。

設計段階から認知症介護に精通した管理者の意見が取り入れられ、入居者の身長差に配慮して手すりを2段階で設置するなどの工夫がなされており、入居者の安心と安全を考慮した建物となっている。

それぞれのユニットは別棟になっており、一方は広縁や商事のある和風様式、もう一方は採光に工夫を凝らした天窓のある洋風様式になっており、それぞれの特色を活かした生活空間を作り上げている。

自由で開放的な雰囲気の中、入居者と職員がともに「生活」を楽しんでいると感じられるホームである。職員は決して入居者と馴れ合いにならず節度のある接遇で、自然な見守りと日常生活の支援を行っている。

入居者同士がお互いに声掛けをして助け合う光景も見られ、家庭的な雰囲気の中での認知症ケアがなされていた。

代表者・管理者の在宅における認知症介護の限界と問題点を踏まえ、認知症に対する専門的なケアを実践しグループホームの役割を追究する真摯な姿勢と思いが介護サービスに反映されていた。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特になし

**I 運営理念**

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p><b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b></p> <p>入居者がその人らしく生活しようとする「人として当たり前の思い」に応える介護を目指し、「家庭生活」の延長線上にあるグループホームケアサービスの提供を目指している。管理者を先頭に職員一人ひとりが「行動には理由あり」という意識のもと常に入居者の気持ちを考えて行動できるよう取り組んでいる。</p> <p>入居者・職員ともにタイムスケジュールに縛られることなく、一緒に生活をしながら「人間対人間」の関わりの中での認知症介護を志している。</p> <p>家庭的雰囲気を追求しつつ、質の高い介護サービスの提供を目的として、看護師資格の管理者により医学的健康管理には特に留意して入居者の日常生活を支援している。</p>		

**II 生活空間づくり**

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>日常生活の中で入居者一人ひとりが「自分の居場所」を作れるように、調理・配膳下膳・テーブル拭き・洗濯物の片付けなど日常生活業務をその人の要求に合わせて、無理のない役割を自然に与え、やりがいや生きがいの感じられる精神面でのサポートがなされている。</p> <p>玄関や居室に施錠は無く、入居者は「管理されている」という拘束感を感じることなくごく自然に自由に生活できている雰囲気であった。</p> <p>ホームで飼育している愛犬(フレンチブルドッグ)は、入居者の癒しの存在になっていた。</p>		

**III ケアサービス**

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

**III ケアサービス(つづき)**

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者一人ひとりの「認知症」という疾患をその人の個性として考え、個人の尊厳を尊重しているホームである。</p> <p>入居者の過去の経歴・経験にも目をむけ、個人を尊重しながら集団の中で役割を持って生活できるように支援している。</p> <p>職員は入居者との係わりの中で、決して「自分たちの職場にいる入居者」ではなく「入居者一人ひとりの生活の場」で職務を遂行しているという意識を持ち、人としての繋がりを大切にしていることが管理者からの話や各種業務に関する記録から確認できた。</p>		

**IV 運営体制**

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>入居者が安心して安全に生活できることを最大の目的としている。ホーム内の衛生管理が徹底されており、感染防止に最善を尽くしていた。(トイレ・浴室等の掃除チェック、台所の掃除・まな板消毒などの記録が詳細に残されていた。)</p> <p>職員の自己研鑽のために研修への参加も積極的に行われている。研修参加者のレポートはファイリングされており、全職員が揃って質の高い介護サービスへの提供が実践できるように、入居者の情報の共有化と理解を促す取り組みがなされている。</p> <p>「苦情処理対応記録」や「事故報告書」などの記録が備えられており、現状維持ではなく常に向上心を持ちより良いサービス提供を目指すため、管理者を中心に問題発生防止と予防への対策が行われていた。さらに問題点の積極的改善に努めている。</p> <p>代表者と管理者は個々の職員の力量を把握して上で、職員同士がお互いにサポートできる体制を取りチーム全体で質の高いサービスの提供が出来るように努力している。</p>		